

スコアシート		実施設計段階				
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点		全体		
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						2.8
Q1 室内環境						3.5
1 音環境		3.0	0.15	3.2	1.00	3.1
1.1 室内騒音レベル	—	3.0	0.50	3.0	0.50	
1.2 遮音		3.0	0.50	3.4	0.50	
1 開口部遮音性能	住居部分の開口部の遮音性能をT-2とする。	3.0	1.00	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能	—	—	—	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	—	—	—	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	—	—	—	2.0	0.20	
1.3 吸音	—	—	—	—	—	
2 温熱環境		2.4	0.35	4.0	1.00	3.8
2.1 室温制御		3.0	0.71	4.0	1.00	
1 室温	—	—	—	—	—	
2 外皮性能	日本住宅性能表示基準5-1「断熱等性能等級4相当	3.0	1.00	4.0	1.00	
3 ゾーン別制御性	—	—	—	—	—	
2.2 湿度制御	—	1.0	0.29	—	—	
2.3 空調方式	—	—	—	—	—	
3 光・視環境		1.5	0.25	3.5	1.00	3.2
3.1 屋光利用		1.8	0.30	4.0	0.50	
1 屋光率	住居部分で屋光率2.0%以上確保	1.0	0.60	5.0	0.50	
2 方位別開口	—	—	—	3.0	0.30	
3 屋光利用設備	—	3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策		1.0	0.30	3.0	0.50	
1 屋光制御	—	1.0	1.00	3.0	1.00	
3.3 照度	—	3.0	0.15	—	—	
3.4 照明制御	—	1.0	0.25	—	—	
4 空気質環境		3.2	0.25	3.8	1.00	3.7
4.1 発生源対策		4.0	0.60	4.0	0.63	
1 化学汚染物質	JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。	4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気		2.0	0.40	3.6	0.38	
1 換気量	—	1.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能	居室面積の1/6以上の開閉可能な窓を確保している。	—	—	5.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮	—	3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理		—	—	—	—	
1 CO ₂ の監視	—	—	—	—	—	
2 喫煙の制御	—	—	—	—	—	
Q2 サービス性能		—	0.30	—	—	2.8
1 機能性		2.0	0.40	2.6	1.00	2.5
1.1 機能性・使いやすさ		—	—	3.0	0.60	
1 広さ・収納性	—	—	—	—	—	
2 高度情報通信設備対応	—	—	—	3.0	1.00	
3 バリアフリー計画	—	—	—	—	—	
1.2 心理性・快適性		1.0	0.50	2.0	0.40	
1 広さ感・景観	—	—	—	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース	—	—	—	—	—	
3 内装計画	—	1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理		3.0	0.50	—	—	
1 維持管理に配慮した設計	—	3.0	0.50	—	—	
2 維持管理用機能の確保	—	3.0	0.50	—	—	
2 耐用性・信頼性		2.9	0.30	—	—	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	—	—	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	—	3.0	0.80	—	—	
2 免震・制震・制振性能	—	3.0	0.20	—	—	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.1	0.30	—	—	
1 躯体材料の耐用年数	劣化対策等級3相当	5.0	0.20	—	—	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	—	2.0	0.20	—	—	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	—	2.0	0.10	—	—	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	—	3.0	0.10	—	—	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	—	3.0	0.20	—	—	
6 主要設備機器の更新必要間隔	—	3.0	0.20	—	—	
2.4 信頼性		2.8	0.20	—	—	
1 空調・換気設備	—	3.0	0.20	—	—	
2 給排水・衛生設備	—	2.0	0.20	—	—	
3 電気設備	—	3.0	0.20	—	—	
4 機械・配管支持方法	—	3.0	0.20	—	—	
5 通信・情報設備	—	3.0	0.20	—	—	

3	対応性・更新性		3.0	0.30	3.0	1.00	3.0
	3.1 空間のゆとり		-	-	3.0	0.50	
	1 階高のゆとり	-	3.0	-	3.0	0.60	
	2 空間の形状・自由さ	-	-	-	3.0	0.40	
	3.2 荷重のゆとり		3.0	-	3.0	0.50	
	3.3 設備の更新性		3.0	1.00	-	-	
	1 空調配管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20	-	-	
Q3	室外環境(敷地内)		-	0.30	-	-	1.8
1	生物環境の保全と創出	-	2.0	0.30	-	-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮	-	2.0	0.40	-	-	2.0
3	地域性・アメニティへの配慮		1.5	0.30	-	-	1.5
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-	2.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	-	1.0	0.50	-	-	
LR	建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	3.0
LR1	エネルギー		-	0.40	-	-	3.2
1	建物外皮の熱負荷抑制	-	3.0	0.20	-	-	3.0
2	自然エネルギー利用	-	3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化	BEI=0.86、LED照明設備を採用している。	3.4	0.50	-	-	3.4
	集合住宅以外の評価		-	-	-	-	
	集合住宅の評価		3.4	1.00	-	-	
4	効率的運用		3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価		-	-	-	-	
	4.1 モニタリング	-	3.0	-	-	-	
	4.2 運用管理体制	-	3.0	-	-	-	
	集合住宅の評価		3.0	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング	-	3.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制	-	3.0	0.50	-	-	
LR2	資源・マテリアル		-	0.30	-	-	2.7
1	水資源保護		2.2	0.20	-	-	2.2
	1.1 節水	-	1.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用	-	3.0	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無	-	3.0	1.00	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減		2.6	0.60	-	-	2.6
	2.1 材料使用量の削減	-	2.0	0.11	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.22	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.22	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.22	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材	-	-	-	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	GL工法を採用している。	4.0	0.22	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避		3.7	0.20	-	-	3.7
	3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	3.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避		4.0	0.70	-	-	
	1 消火剤	-	-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)	ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材の採用	4.0	1.00	-	-	
	3 冷媒	-	-	-	-	-	
LR3	敷地外環境		-	0.30	-	-	3.1
1	地球温暖化への配慮	ライフサイクルCO2=78%	3.8	0.33	-	-	3.8
2	地域環境への配慮		2.5	0.33	-	-	2.5
	2.1 大気汚染防止	-	3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	-	2.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制	自転車置場、駐車スペース、荷捌き用駐車施設の確保。	4.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制	-	2.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮		3.0	0.33	-	-	3.0
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
	1 騒音	-	3.0	1.00	-	-	
	2 振動	-	-	-	-	-	
	3 悪臭	-	-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-	
	1 風害の抑制	-	3.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制	-	1.0	-	-	-	
	3 日照障害の抑制	-	3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制		3.0	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	-	3.0	0.70	-	-	
	2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	1.0	-			○	-	-	-	-						
1.3.1 維持管理に配慮した設計	4.0		○	-	○	-	○	-	-	○	-				-
1.3.2 維持管理用機能の確保	5.0		-				○	-	○		○	○		○	-
2.4.1 空調・換気設備	1.0		○	-	-	○	-								
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	-	○	-	-	-	-	-						
2.4.3 電気設備	1.0	-	-	-	-	○	-	-							
2.4.5 通信・情報設備	2.0		-	-	○	-	○	-							

Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	4.0		-	-	2.0	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-		
2 まちなみ・景観への配慮	1.0		-	1.0	-	-	-	-							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0		-	-	-	-	-	1.0	-	-					
3.2 敷地内温熱環境の向上	-		-	-	-	-	-	-	-	-					

LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-	-	-					
2.1 材料使用量の削減	-		-	-	-										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-									
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	1.0		-	○	-	-									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-														

LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	3.0		-	-	-	-	1.0	1.0	-	1.0	-	-			
2.3.3 交通負荷抑制	3.0		1.0	-	1.0	1.0	-	-							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	2.0		1.0	1.0	-	-	-	-							
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	2.0		-	2.0											

主な指標															
Q1 室内環境															
2.1.3 外皮性能	窓システムSC - 窓の日射熱取得率(η) 0.5 U値(W/m2K) 窓システム 3.6 屋根 0.7 外壁 0.6 床 0.9 住戸部分 窓システムU値 3.6 外皮UA値 0.7 η AC 2.4 η AH 2.1														
3.1.1 昼光率	昼光率 3.6%														
4.2.2 自然換気性能	自然換気有効開口面積率 20.6%														
Q2 サービス性能															
1.1.1 広さ・収納性	執務スペース 6.0㎡/人 病床 8.0㎡/床 シングル 15.0㎡ ツイン 22.0㎡														
1.1.2 高度情報通信設備対応	コンセント容量 0.0 VA/㎡														
1.2.1 広さ感・景観	天井高 2.4 m														
1.2.2 リフレッシュスペース	リフレッシュスペース 0.0% レストスペース 0.0%														
2.2.1 躯体材料の耐用年数	想定耐用年数 75 年														
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	想定必要間隔 20 年														
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	想定必要間隔 0 年														
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔	想定必要間隔 0 年														
3.1.1 階高のゆとり	階高 2.86 m														
3.1.2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率 0.0%														
3.2 荷重のゆとり	床荷重 - N/m2														
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	外構緑化指数 20% 建物緑化指数 12%														
3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率 38% 水平投影面積率 1% 地表面対策面積率 7% 舗装面積率 30%														
LR1 エネルギー															
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI/BPI _m - 断熱等性能等級 等級4 相当														
2 自然エネルギー利用	自然エネルギー直接利用量 0 MJ/年㎡ 採光を満たす教室数 0.0% 採光を満たす住戸数 0.0% 通風を満たす教室数 0.0% 通風を満たす住戸数 0.0% 太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kW														
3 設備システムの高効率化 非住宅部分	BEI/BEI _m 再エネ有 - 無 - オフサイト再エネ有 - -														
集合住宅の評価	一次エネ削減率 再エネ有 無 14% -														
LR2 資源・マテリアル															
1.2.1 雨水利用システム導入の有無	雨水利用率 0.0%														
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	特定調達品目 - エコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 -														
2.5 持続可能な森林から産出された木材	使用比率 5.0%														
3.2.1 消火剤	オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)														
3.2.2 発泡剤(断熱材等)	オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 3														
3.2.3 冷媒	オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	見付面積比 #DIV/0! 隣棟間隔指標Rw 0.40														
	地表面対策面積率 25.0% 屋根面対策面積率 12.0% 外壁面対策面積率 0.0%														
	見付面積S _b ㎡ 卓越風向と直交する最大敷地幅W _s 0 m 基準高さH _b 0 m														
	緑地 172㎡ 水面 ㎡ 保水性対策面 ㎡ 高反射対策面 200㎡ 再帰性反射対策面 ㎡														